

生活とデザインセミナー

「好きなこと、働くこと。」

平成30年2月24日(土)

浅野桃子、上出恵悟、新山直広



〈概要〉

東京で絵画を学び福井へやってきた浅野桃子、東京で絵画を学び実家の家業を継いだ上出恵悟、京都で建築を学び福井でデザイン事務所を立ち上げた新山直広。3名の三者三様のクリエイティブな仕事についての対談。

第一部 (自己紹介)

浅野桃子 (ASANO Momoko)

福井大学 特命講師/美術家

仁愛女子短期大学 非常勤講師

制作する場所や発表する場所にフォーカスした現代アート作品を制作している。福井市のE&C galleryでの個展『沼世、ここ世 Swamp,Here』でのインスタレーション作品を紹介。生まれてはじめての福井で経験した天候や様々な事柄から「灰色」(グレーのグラデーション)の美しい世界を覗いた作品を展示。日々生活している中で出会うモノやヒトやコトの断片を欠片にしながら作品を制作している。

また、ローカルとローカルをつなぐwebメディアで real local 福井でライターの仕事もおこなう。

2018年には福井の文化拠点となるべくHAI studioを開始する。福井市街地にある物件からはじまる新たな試み。アーティストインレジデンスの「場」としてHAI-AIR fukuiを開始する。福井市街地でアートイベントなどもおこなう予定。

キーワードは「わたしを楽しみつくそう」

美術家としての活動の中で福井も活動の拠点としていこうと考えている。福井を全くを知らずしてやってきたが多くのクリエイターに出会えてよりクリエイティブになれたと感じている。





新山直広 (NIYAMA Naohiro)

TUGI代表／デザインディレクター

半径10km圏内に産業が集積している鯖江市河和田で活動。2013年サークルとしての活動をスタート。大阪6人鳥取1人山形1人が移住したメンバーにより構成。

(のちデザイン事務所として活動)

キーワードは「創造的な産地をつくる」

地域(福井)の隠れた原石や地域資源を見つけ、磨いて、伝えることにより価値化することで県内外への気付きを目指す。

時代の変化に向き合って考えて行動出来る人、会社を増やす。

ものづくりの産地はつくることに特化していたが、生き残ることを考えると、デザイナーだけでなくみんなが自身で考え工夫する産地にしていきたい。

「支える・作る・売る」

企業・商品価値を高めるブランディング。

地域でデザインをするためには人に伝わるものをつくり、売るための販路を考える。

産地を盛り上げるためにロゴマーク、カタログ、HP、パッケージデザイン、空間デザイン、お店のサイン等広

い分野の仕事。トータルの見え方を伝えられるように心がけている。

アクセサリー、お弁当箱等を作り、期間限定ショップでSAVA!STOREで販売をも行っている。

また福井に来てもらうきっかけとして工房見学『RENEW』を開催している。伝統的工芸の需要減少、後継者問題を背景に持続可能な仕組みづくりを工場見学を通して県内外の人に知ってもらう活動を年1回(10月)におこなっている。去年は中川政七商店と共催したことで、来場者数、売上共に向上した。産地の人たちの熱量が上がり、自信がついたことが大きな利点である。それだけでなくこの町で働きたいという人が増えた。伝統工芸とは職人が淡々とモノを創っているイメージがあるが、河和田は若い人が多く、ものづくりがしたい人たちが県外から集まってきているので、自分たちのつくりたい産地のイメージにむけて若い人たちや助けてくれる大人・企業が集まって盛り上げようという雰囲気になっている。

「領域を超えて、必要なことはなんでもやる。産地に特化したデザイン事務所」ある時はアクセサリー屋さん、ある時はイベント屋さんとして福井の可能性を広げていけるように今後も活動を続ける。

上出恵悟 (KAMIDE Keigo)

上出長右衛門窯／美術家

実家が石川県能美市で六代続く九谷焼の窯元で明治12年創業、割烹食器を分業ではなく一貫してつくる。家業を継ぐきっかけになった理由のひとつは「笛吹」という実家で作る湯呑が好きだったから。実家では好き、嫌い関係なく焼き物に囲まれて生活していた。大学生の頃、金沢のある茶房で使用されていた湯呑について友人に聞かれ「これは実家で作ってるものだ」という会話をきっかけに「会話が生まれる器」の素晴らしさに気づいた。「笛吹」を広めようと絵付けのモチーフは笛以外に身近な楽器に持たせかえた図柄で器をつくった。また2010年にはハイメ・アジョン氏とのコラボレート食器を手がけた。デザイナーが入って絵付けを大切にしている商品は珍しい。

5月の『窯まつり』では普段商品にならないもの（B品）を売り、轆轤入門絵付入門などが出来る。これらを通して「師匠」と「弟子」の疑似体験が出来、入門してくれた方には門下生バッチを進呈している。

「KUTANI SEAL」

転写技術を使ったやきものが増えている。手描きを続けている産地で転写技術が増えると手描き技術がなくなってしまうことを危惧し、互いが共存するために転写と手描きを区別させた「転写のブランド」をつくり広めている。「小鳥の箸置」「わんわんのぺろぺろスプーン」「neko Jealousy」は動作がデザインの一部になり、「使いたくなるモノ」をつくっている。丸八製茶場などともコラボレーションしKUTANI SEALの可能性は広がってきている。

窯元には大学時代の仲間も増え、チームとして一緒に頑張っている。

第二部

三者三様の活動を紹介していただいたのち、対談。

（浅野）上出さんは大学ではファインアートをやっていた

が、今は商品のデザインもするし、ディレクションもする。新山さんは建築を学びデザイナーという職業では収まりきらない仕事（まちづくり、地域づくり）をする、おふたりとも多様な働き方をしているので肩書がひとつに収まりきらないですね。でもいろんなことをやりやすくなったので、ストレスfulにならず、やりたいことをやることができる時代になってきていると感じます。

（新山→上出：東京から石川に帰った理由は？）

（上出）現代美術をやっている中で、モノとして強度を感じられなかったので、日本美術、工芸に興味を持ち始めました。家業を続けるためには残された時間が無いと感じたことも理由のひとつです。

父親には業界的に先が見えないので帰ってくると言われてきました。

そして、仕事をもっと開かれたもの、身近なものにすることが大切だと思いました。可能性として面白いと思ったことをやってみるということを最初は積極的にしていました。

自身の名前ではなく、窯の名前が全面に出る仕事は僕の個人のエゴみたいなものを超越して新しい挑戦ができる気がします。

（浅野→新山：新山さんの福井でのスタートはどんな感じでした？）

（新山）建築家になりたいと思ったけれど、どんどん建てる時代ではもはやなかったんです。福井に来てすぐはやっぱり大変でした。うまくいかなかった理由は3つあります。

- ・車の免許もなくやってきた事
 - ・同世代がいなかった
 - ・自分の力量が分からず仕事の仕方が分からなかった
- 数年悶々としながら生活していましたが、仲間を集って「TSUGI」を立ち上げました。

（浅野）クリエイティブな仕事は用意されているわけではないので、自分で工夫してどれだけ熱量を持っているかで仕事につながりますね。

（新山）福井はあまり観光で来るというイメージの場所ではないが、福井のおおらかな地域性はやりたいことがやれる環境として整っています。

(浅野) それぞれがもたれかかるわけではなく、ほどよい距離感から見合っていて自立した関係を保ちながらつくりあげていける環境が福井でならできると思いますが。そういうことが福井や北陸での一步をより進めやすくなっている気がしますね。

仕事をしている人たちが心から面白いと思って仕事をしていると地域により豊かな印象を与えたいと思います。

(新山→浅野:1年経ちましたが福井はどうですか?)

(浅野) 一年経ったら東京に戻るつもりだったけれど、新しいプロジェクトが始まるのでまだ福井にいます。福井の人たちは控えめだから良いところを自慢しないので、自分で一年間ほんとうによく街を歩きました。柔らかくて、優しい場所ですね。程よい距離感で生活している場所だなと感じました。

だからといって永住を決めたわけではなく、活動の拠点がひとつ増えたという感覚です。

(上出) 北陸は案外つながらないけれど、つながっていきたいという想いがあるので、つながっていける活動になれば良いと思います。

みんなで一緒に良い働き方、生き方を見つけてい

きたいですね。

(新山) 自分の人生は楽しい方が良い。いい仲間恵まれ、やりたい仕事でご飯が食べられているから自分が幸せだと思っています。これからまた悶々とするところもあるかもしれないが、デザインを学んだ人たちだからこそ、デザインの思考を活かして社会でつながってくるので、一緒になにかできるというなと思います。

この講演会に来てくれた人の中に仁愛女子短期大学の卒業生もたくさんいますが、今、展示されている卒業制作は自身の宣言文のようなものだから、課題から本質を見つけて役立ててほしいです。

(上出) 外から来た人は地域に新しい風を吹き込むけれど、地元の人が変わることが大切。産地、地域が変わるためにはインサイダーから変わっていくことが大切だと思います。

(浅野) 外から福井にやってきてここでやりたいという気持ちが出てきました。福井はいろんなものをつくりあげていけるポテンシャルをもっています。北陸全体で頑張っていきましょう。

